

Q & A

先にいただいた質問への回答です。質問の内容から理解できたことを書いていますので、当てはまらない部分もあるかと思えます。お子さんの様子を理解する参考にしてみてください。

1 幼児の兄弟げんか

① 兄弟げんかについて、1日に何回もけんかをする。お互いに悪いということはあっても、暴力が一方的。最初は冷静に止めに入るが、すり抜けてまたは追いかけて回して自分の気が済むまで暴力を振るおうとする。それが1日に何度もだとさすがにこちらがイライラする。兄は小1で高機能自閉症（アスペルガー症候群）、妹は年中。

(対応)

- 1) 環境の調整： 二人が衝突しやすい時間帯や場所などパターンを見つけてください。
「分かち合う」ができない発達段階（年中さん）と社会性の障害（ASD）のため、まずは、「一人遊び」が安心してできる環境を作ります。
- 2) 約束を目に見える形で示す：お兄ちゃんの場所、妹さんの場所を目に見える形で分けます。
入るときの「入れて」「○をかしてください」「ありがとう」という貸し借りの約束をします。
- 3) 親御さんの受け止め方：「一連の流れを整理するシート」で欲求を整理します
ある日のトラブルを一連の流れにしてみてください。気持ちと欲求を考えて、声掛けします。
「～いう気持ちなのかな」「～がしたいの？」「じゃあ、こうしよう」

2 自分の思い通りにいかないとかんしゃくを起こす

①Wi-Fiが上手く繋がらない、折り紙が折れない、プラレールの連結部分が壊れていて誰がやっても連結できないなど誰も悪くないことでかんしゃくを起こし暴力をふるい暴れて色々なものを壊したり、殴りかかってくる。小さい頃は力も弱かったが現在小4で体も大きくなって破壊力も増し、PCやIPADを叩き割ろうとする。殴られると怪我をする事もあり、叱っても優しくなだめても解ってくれないので相手をする側の精神的ダメージも大きく困っている。知的な遅れが無い子なので、わがままな子・親が出してくれているからと言われる事が多く困っています。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求：

お子さんは、「やりたい」気持ち「上手にやりたい」という達成意欲が高いようです。
期待通りに動かないので、機械に「罰」を与えている様です。

2) その場での受け止め方（レジユメを参照してください）

- ① やっていることを言葉にします「プラレールをつなげてるんだね」「ずいぶん、複雑につなげてるね」「すごいね」物を投げているときは、手を受け止める形に出して「ここにちょうだい」
- ② 気持ちを受け止めます。「イライラしてるのかな？」「ごめんねー。こわれちゃったね」
「どこかぶつけてない？」
- ③ どうしたいのかを言葉にしてみます「どこを、どうしたいの？」

- ④ いっしょに考える姿勢を見せます「いっしょに、考えよう」
- ⑤ 少しでもいい行動がでたら、すかさずほめます。「ありがとう」「待てるね」

②ゲームを時間通りに止められず、怒りだします。新しいゲームを買ってくれないと言って怒りだします。些細なことで怒りだし、泣いたり物にぶついたりします。妹はお兄ちゃんが怒りだすと怖くて泣いてしまいます。妹のためにも怒らせないように注意していますが、私も怒ってしまいます。

(対応)

1) 状況からわかるご家庭での気持ちと欲求

お兄さんは、赤鬼さんタイプ自分のやりたいことが上手くできずに「自分にイライラしています」妹さんは青鬼さんタイプ、それ(おもちゃや壊れるもの)を見ていて、「自分も壊される」と怯えています。親御さんは、どちらにも対応しなくてはならず「アンビバレント」になってしまい、その結果、お兄さんも、妹さんも中途半端に受け止められているので、落ち着きません。

2) その場での受け止め方

- ①まず、妹さんを離しましょう。
- ②兄さんに対しては、上記の①のお子さんと同様にしてみてください。
- ③お兄さんには、困ったときに「早目に助けを求める」練習をしてみます。

3) 親ごさんの、アンビバレントへの対応

親御さんが揺れると、子どもさんも揺れます。まず、ご自身のストレスマネジメントをして、深呼吸。「大丈夫。数分で落ち着く」とセルフトーク。一人ずつに対応。「ごめんね」「ありがとう」を繋ぎ言葉として上手に使います。

③事前に話していても、なかなか効果がないので困っています。「ゲームだから負けることもあるけど、怒らないでね。」「上手くできない時は、怒らないで、手伝ってと言ってね。」など、伝えていても、怒ってしまうのです。その上、一旦イライラしだすと、助言が一切通じないので困ります。「こうしたらどう?」「手伝うよ。」「ちょっと休んだら?」と言っても効果がないし、なかなか怒りが収まらないので、早く収める方法が知りたいです。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

お子さんは赤鬼さんタイプですね。「発散型」なので、「カッとなったら外に出したい」ようです。止められると余計に出口を求めるので、早く収めるためには「上手な発散の仕方」を教えてあげましょう。

- ① イライラしたときは、いっしょに「くやしいねー」と気持ちを言葉にします。
- ② 先に「イライラしたときは、このストレッチバナナぎゅーしよう」「ママ、すぐくるよ」

④ 苦手なことをするとイライラします。避けていたほうがいいのでしょうか?

(対応) 苦手なことをする場合は達成感が得られるように、完成形から量を少しずつ増やしてください。

- ① お洗濯の場合は、1週間目は、「最後のピンチにかけるところだけ」
- 2週間目は、「選んでおいてある靴下を洗濯かごから、一人でピンチにつける」
- 3週間目は、「洗濯かごの中から靴下を探して、一人でピンチにつける」という具合です。

手順でやりにくいところがあったら、やりやすいように工夫をしてみるといいと思います。

⑤ 完璧主義で、勉強も上手く出来ないといライラして落ち着きがなくなったりします。また指導してくださる先生にもそのイライラをあてつけたり、することがありますが、どのような対応や声掛けが有効でしょうか？

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

親御さんもお気づきのように、「達成動機」が高いお子さんです。ぜひ、いい方に導いてあげてください。

2) その場での対応

- ① 完成のイメージを具体的に示す。「どんなふうにやりたい？」
- ② パーツに分けて、達成感を増す
- ③ 「うまくできなかった」というときは、一緒に悔しがる（なだめません）
- ④ 少し待ってから、「どうする？もう一度やる？」と聞きます。

⑥ 5歳の息子が気難しく、怒りっぽく対応に困っています。その時々により、泣きわめいたりし、物や人に当たったり、静かに泣くときもあったり、ひたすら反抗的な言葉や態度で怒りをぶつけてきたり。親が子どもに振り回されないためにはどうしたらいいでしょう？

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

反応が様々なので、その時々のお気持ちが異なるようです。泣いたり、物に当たる場合は「気持ちを言葉にする」力が未発達であることが考えられます。伝えたくてもうまく「ことば」にならないので、「暴言」になってしまうのではないのでしょうか

2) その場でできる対応（レジユメを参照してください）

- ① やっていることをことばにする ② 気持ちをうけとめる ③ やりたいことを言葉にする
- ④ 適切な方法を伝える、見せる です。

3) 日常での支援

- ① 「行動のことば」「気持ちを表す言葉」を増やしてください。

絵本や、表情ポスター等を使って表情の練習をしたり、気持ちを伝える練習をするとカッとなったときに気持ちを伝えやすくなります。

3 集団活動が苦手

① お友達から受ける言葉や態度に我慢することがしにくい。集団のペースに合わせられない。

(対応)

1) 状況からわかる気持ちと欲求

- ① お友達の言葉を誤解していることが考えられます。

2) その場でできる対応

- ① 定義を合わせてみてください。

- ② トラブルになりそうな場面で「ほんやく」を試してみてください。
「これは、こういう意味だよ」と言い換えると、「なんだそういうことなの」とわかりやすくなります。あいまいな表現が苦手なのかもしれません。

3) 日常的な対応

- ① レジュメのNG集は、子ども同士でも行わないようにしましょう
「だめ」「～しちゃいけない」 ➡ 「これはつかっていいよ」「〇分たったら交代ね」

② 自閉の強い高校男子で発語なし、後ろから顔を引っ掻くなどの他害あり。常に歩き回り、ビーズやオセロの駒をジャラジャラさせて床や壁を叩いている。落ち着きがない時は散歩に出たり、止まっている車に乗って過ごす。薬が効きにくい体質のようで、いろいろ試しているが効果は今一つ。時間を問わず着衣無しの徘徊もあり、保護者も疲れている様子。最近では他害がいきなりでるので避けるのも難しく、女性指導員では力負けをしてしまい、散歩時も手を振り払われるとダッシュで走り出し追いつかないなど。人は好きなようで、小さい頃はおんぶや抱っこで落ち着いていたが、年齢と共に止める方向にした。他に好きな事を探しているが見つからず、本人の落ち着くよい対処法を見つけたい。自分の居場所が見つからず、歩き続けているようにも思える。

(対応)

1) 状況からわかる本人の気持ちと欲求

自閉が強く、思春期を迎えると本人はとても苦しいと思います。第二次性徴期でホルモンバランスも崩れ、わけのわからないモヤモヤに襲われているのではないのでしょうか。常同行動は、それを回避するため（苦痛回避欲求）のときに表れます。

他害がでるのは、「相手が自分のテリトリーに入ってきた」ときの排除としての攻撃や、「相手が自分の要求を叶えてくれないとき」の罰するときの攻撃に別れるようです。

他者に触る、のは安心欲求が出ている時や親和欲求が出ている時でしょう。プラスの感情が出ている時だと思われます。

2) その場でできる対応

- ① **環境調整**：本人が安心して作業できる場所をつくり、その日に行う作業をTEACCHを使って構造化してください。
- ② **ひまな時間を少なくする**：常同行動はやることがなくて不安な時に現れます。スケジュールを決めて、予定通りの行動ができたなら褒めてもらえるように「達成感」を出してください。達成感が増えると、快感を求める行動は減って行きます。

③自分が一番でないと騒ぎ出したり怒り出してしまう子への支援方法について教えてほしい。興味関心のあること以外は全く手が付かず教室内を動き回ったり騒いだり、大声で暴れてしまう子に対する効果的な指導方法についてご示唆下さい。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちや欲求

一番最初がいいお子さんの場合は、ストレス耐性が低く「待つ」ことの見通しが立たないからですが、勝ち負けを気にして「一番（頂点）」に立ちたい場合は、承認欲求が出ています。

興味関心があることに集中できるのは、素晴らしいですね。苦手なことや初めての事に取り組まないのは「見通しが立たない」不安が強いので苦痛回避をしているのだと思われます。

2) その場でできる対応

- ① 興味関心があることに取り組んでいるときは、よりよい行動になるようにお手本や参考になるものを側においておきます。指導をするときも「できているところ」を具体的にことばにしてから「あとどこを工夫したい？」と本人の欲求を聞きます。
- ② アドバイスは足し算で行う：このタイプは、「こうしたらいいよ」が批判に取られますので、「ここいいね。」「あと1色加えて見ない？色が深くなるよ」というように足し算でのアドバイスをします。
- ③ 苦手なことに取り組んでほしいとき：平行遊びから始めます。そばで、大人や友だちにその行動をしてもらおうと、見ることで見通しが立ちます。行動の完成形を絵や写真で示すのもよいでしょう。

④子どもが家庭だけでなく、お友達に対してもすぐ怒るので困っています。(自分の失敗でも、お友達に八つ当たりする)たいいてい、すぐ仲直りできます。親がついているときは、とりなしますが、子どもだけで遊んでいるときに怒りださないようにするには、どうしたらよいでしょうか。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちや欲求

お子さんは、何歳でしょうか？年齢によって、「制御機能」がどこまで活用できるかが分かります。

2) その場でできる対応

お子さんとその時のできごとを振り返ってください。

- ① 「できごとを一連の流れで整理するシート」を使って、どのようなやりとりがあったのかをお子さんの視点で聞いてみます。
- ② 気持ちや欲求がわかったら、適切な表現方法をひとつづつ教えて行きます。
- ③ 振り返りをしているときに、たとえお子さんが悪い行動をしたり、相手を責めてたりしても批判せず、客観的に振り返るようにしてください。

3) 日常的にできる対応

- ① マイソーシャルストーリーブックをつくる
- ② トラブル場面での解決スキルを学ぶ
幼児さんなら、絵本を読みながら学ぶとよいでしょう。

⑤気持ちの切り替えができず、ちょっとしたこと友人関係とのトラブルで怒りが爆発する子がいます。対応に困っているので、どう支援したらよいのかが知りたいです。

(対応) ④の方と同様にしてみてください。

3) 日常的にできる対応

- ①環境調整：トラブルが起ころうな時間や場所にスタッフを配置する。遊び場所を構造化する等
トラブルを減らす工夫もしてみてください。
- ②ソーシャルスキルトレーニングをする：子ども達に「仲間入り」「友だちづきあい」「トラブル対応」などの基本的なスキルを教えていきましょう。

⑥ お友達との関わりの中で、注意されたり、否定されてしまったりしたとき、どうしても気持ちが“怒り”になって、トラブルへと発展しやすいのですが、どうしたら気持ちを“怒り”に変えずコントロール出来るようになるか何か良い方法を教えて頂ければと思います。

(対応) ④⑤の方と同様の対応を試してみてください

3) 日常的にできる対応

① **環境調整**：カッとなったときに「タイムアウト」をとれる場所やイスを用意してみましょう。

⑦未就学児について。友だちとの関わりで、「友だちの手や肩がぶつかった」「自分の遊んでいるところに、黙ってはいってきた」という事で、瞬発的にカッとなり相手に手が出て、大人が止めない限り、怒りがおさまりません。話をじっくり聞くと、落ち着き、殴ったことを後悔して「さっきは、ごめんね」と自分で言いに行きます。根は優しい気持ちを持っていて、泣いている人がいると「どうしたの？大丈夫だよ」と声をかけている場面もよく見かけます。しかし、嫌なときには、本人にもどうにもならない感情が湧きあがってしまうようなのです。今の様子では学校での生活には、彼の気持ちをじっくり聞ける大人の個別的フォローが必要と感じています。就学までの期間、どのようなことにポイントをおいて関わっていったらよいか。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

このお子さんは、ルールをきっちりまもり、正義感も強いように感じます。理不尽なことに対してのまっとうな怒りのようです。また、普段他者思いのところもあるようなので、「ため込みタイプ」の可能性もあります。身体に出したり（発熱、痛み等）を訴えているときはないでしょうか。

2) その場でできる対応

① **相手の行動のほんやくをしてください**：

相手がやっていることを言葉にします。「～してるね」次に意味を伝えてください。「それは～という意味だと思うよ」

3) 日常的にできる対応

① 「相手の話を聞く」力をつけましょう。相手がどういう意図でその行動をしたかを自分でも聞けるようにしましょう。

② 「仲間入り」のスキルを他の子どもにもつけましょう。相手の場所に近づくときは「はいっていい」「〇くん。あそぼ」などの「あいさつ」をすることを教えます。

③ 「上手な断り方」を教えます。自分のテリトリーに入ってきてほしくないときの合図の出し方や「ぼく、今これしてるから、一人にしてほしい」と説明するスキルを教えてみてください。

このお子さんは、パターン学習ができそうです。いろいろなスキルを学習するとよいでしょう。

4) 就学に向けての対応

ぜひ療育やソーシャルスキルトレーニングを親子さんでやってみてください。

① マイソーシャルストーリーブックをつくる

② 並行遊びから共同遊びをする練習をする

③ 就学相談時に「合理的配慮」（後述）のお願いができること、担任の先生の配慮をお願いできます。

⑧小学校3年生。勝ち負けに強いこだわりがあり、自分の思い通りにならないとかんしゃくを起こす児童がいます。クールダウンをさせ、その場を落ち着かせることは出来るようになってきましたが、本質的な問題（かんしゃくを減らしていく）への解決がなかなか進みません。何か有効な手立てがあれば教えていただきたい。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちや欲求

小学校3年生は、「勝った」「負けた」にこだわり始めます。「不安」が高いお子さんほど結果である「勝ち」にこだわります。承認欲求が強くなるのでしょうか。

2) その場でできる対応

先生は既に対応されているようですので、クールダウンの方法はこのお子さんもわかっていると思います。ただ、不安が高いので先生にクールダウンをしてもらいたいのではないのでしょうか。

- ① アンガーマネジメントの5段階をDプログラムで実施してみてください。
- ② 黄色サインが出始めたら、早目にクールダウンする練習をします。
- ③ 自分で落ち着いたら、しっかりほめてあげましょう

3) 日常的にできる対応

- ① 達成感のある活動を増やす：結果にこだわるのは「できた」という達成感が低いからです。

課題や運動、作品など、具体的にどこがよかったのか、どのようによかったのかを評価して「できるようになったこと」を目に見えるようにしてみてください。

- ② できないことがある場合には、具体的な改善策を立てる：失敗したり、負けたりした場合は、十分に「くやしき」を表現し、受け止めます。その上で、「次はどうやって工夫しようか」と前向きに作戦を立てるようにします。

4 自尊心が低い

①中学2年、小学5年、共に男の子です。二人とも死にたいとか、自分のことをゴミとよく言います。また、すぐカッとなったり、興奮して鼻血を出します。また、次男は読み書きが苦手で、てんかんの持病もあります。

「自尊心」とは、「自分らしき」を「大切にしたい」と思う気持ちのことです。

それぞれのお子さんにとって「自分らしき」を見つけることから始めてください。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

お子さん方にとっての「自分らしき」はどのようなものでしょうか。「こうありたい」「こうあるべき」という理想が高いのでしょうか？それともお友だちや周囲の方から「ダメ」出しが多いのでしょうか。小5も中2も男の子にとっては、「臨界期」にあたります。特に5年生は、男女の特性が分かれ始め、仲間も変わってきます。自分の興味関心を深める中で達成感を味わっていくのですが、人と比べられる環境の場合には、「できた」ことではなく「人に勝つ」ことが目的になってしまうようです。人より秀でたものがないように思うと「自尊心」は低くなります。日々、悔しい、悲しい思いをされているのでしょうか。どういう自分が嫌いなのか、どういう自分になりたいのか、じっくり受け止めてあげることが大切です。

2) その場でできる対応

- ① くやしさを受け止めてください：悔しいけれど、今はまだ「自傷」には至っていないのであれば、気持ちを言葉にすることで「行動化」を予防します。
- ② その場で解決、改善できることを具体的にを行います：「これをどうしたい?」「どこができるようになりたい?」と具体的に聞き、いっしょに解決策を考えます。
- ③ 具体的なスキルを学ぶ場を作る：学習面なら知能検査や視知覚などの検査をして、本人に合う学習方法を探します。記憶の仕方、参考書の選び方、パソコン学習など、本人に合う学習方法を見つけると「見通し」が立ち「安心」できます。
- ④ 評価は個人内でできたことを具体的に伝える：他者との比較での平均点ではなく、何がどの位できるようになったのか、I E P（個別の教育計画）を立てて、評価をしていってください。

5 知的障害・学習の課題

① 知的障害児の中3男子。外食することが好きで、店舗等の店頭チラシも集めるのが好きです。主人が休暇の日曜日に外出したがるのですが、外出を断ると叩いたり物を投げたりします。行き先も告げず電車に乗ったりしてしまうので、一人では外出させられません。スマホを投げられ怪我もしました。薄型テレビも2～3台壊されました。

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

知的障害があるため、行動がパターン化しやすくなります。「土曜日は外出する日」「お父さんがいる日は外食できる」等です。前頭葉の「実行機能」が未発達なので、「異なるパターンへの行動の修正」が難しいようです。自分の中では「当然のこと」として「楽しみ」にしていたことを「突然止められた」となりますので、「怒ります」気持ちは、「混乱」と「寂しさ」。行動は「やらせてほしい」という「お願い」なのです。力が強いのは、それだけ「想い」が強いことを意味しています。

2) その場でできる対応

- ① 事前にカレンダーを使って、「外出の日」と「家にいる日」をわかりやすく示しておきます。
- ② 外出のときも「TEACCH」の方法をつかって、何時に出かけて、どこにいて、何をして何時に帰ってくると目で見えるように行動を「構造化」してください。
- ③ 変更がある場合は、当日ではなく、前日に伝えるようにしましょう。
- ④ 本人が急に換えようとする場合は、レジュメのステップにしたがって、適切な行動に導いてください。

② 6歳の女の子(小1)、本人も自分の気持ちのコントロールがつけず悩んでいて8月下旬にウイスク検査行いました。全検査 IQ83.言語理解 91.知覚推理 85,ワーキングメモリ 63.処理速度 102 です。最近はお本を沢山読んで、怒りのコントロールをするために自身で冷静になるよう、対処するように様々な工夫に取り組んでいます。算数ができないと落ち込み＝イライラもつものらせています。日常生活でどのように声かけしていけばいいのでしょうか?

(対応)

1) 状況からわかるお子さんの気持ちと欲求

お子さんは、処理速度が102と標準以上に高いのですが、ワーキングメモリが63と40近く低くなっています。これは、目でみて何をすればいいかがすぐわかり、行動化することはできるのですが、情報が3つ以上になって複雑になると「どういう手順で」「どういう風にくみあわせたらいいか」を記憶しながら作業することが困難だということを示しています。つまり、「やれそう」なのに、やってみると「わけがわからなくなる」という状態です。これは、苦しいですね。また、言語も91ありますから、「単語力」もついてきています。ただ、動作を言葉にするだけの「語彙力」や「文法力」が足りません。そのため、「言いたいことが言えない」「やりたいことが上手く組み立てられない」悔しさがあるのではないのでしょうか。

2) その場でできる対応

お子さんは、一人でやりたいタイプの方ですので、以下のようにしてみてください。

- ① 作業の完成形を具体的に見せます
- ② 作業手順をわかりやすく、図示したり言葉にしたりして示します
- ③ 親御さんは、近くで別の作業をしながら「見守る」

3) 日常的にできる対応：お子さんに合う学習方法を探してください

- ① 絵を使って言葉を増やす
- ② タブレットを使って、作業手順を見やすくする 等

6 修学時の「合理的配慮」の申請について

平成28年から「障害者差別解消法」が施行され「合理的配慮」が受けられるようになりました。

1) 内容 (以下のような例があります。詳細は文科省Hp)

学習上の配慮：読み書きの支援のためのタブレットの使用許可、文字を大きくしたプリント等
注意力への配慮：イヤーマフの使用、集中しやすい環境（机の位置や少人数学習等）、休憩の配慮
情緒上の配慮：カッとしたときに落ち着ける場所（教室内や教室の近く）の確保
集団活動への配慮：グループ活動の代わりにレポートの提出、個人でのレポート作成等

2) 手続きの方法

- ① 医療機関の診断書、または ② 教育相談機関からの所見 が必要です。
早稲田大学教育総合クリニックでも、知能検査・視覚検査・聞こえの検査、社会性の検査等を行い、学校や保護者向けの所見を出せます。

II 支援者側の対応について

1 支援者の落ち着いた対応の方法を知りたい (NG集、レジユメを参照してください)

- 1) やっていることを言葉にする
- 2) 気持ちを受け止める
- 3) 子どもがやりたいこと、子どもがやってほしいと思っていることをことばにする
- 4) 適切な方法をいっしょに考えて実行する